

平成31年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

- 1 開催日時 令和2年(2020年)2月3日(月)9時30分～11時20分
- 2 開催場所 広島市役所本庁舎14階第7会議室
- 3 出席者
 - (1)出席委員(6名)
今川 朱美、岡河 貢、高田 由美、田中 貴宏、鰐澤 達夫、柏尾 浩一郎
 - (2)欠席委員(1名)
中城 秀典
- 4 議事
広島特別支援学校 2号棟(仮称)増築工事等について(1回目会議)
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 一般傍聴者 0名
傍聴者(マスコミ関係) 1社
- 7 会議資料
会議次第、委員名簿、広島市側出席者名簿、配席図、
議事資料 広島特別支援学校2号棟(仮称)増築工事等について
- 8 議事要旨
議事 広島特別支援学校 2号棟(仮称)増築工事等について
事業課より議事内容の説明を行い、それに対して各委員よりデザイン上の配慮事項に関する提案等を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。
 - (1) 外壁タイルについて
 - ① 今後の補修において、安定した供給ができるように素材や仕様を検討する。
 - ② タイルの目地色について、目地が白いものを試作されているが、比較のため、若干明度の低い目地色のサンプルを次回会議時に用意する。また、これまでに濃い色の目地で白華が支障となった事例等についての資料があれば合わせて用意する。
 - (2) 連絡通路について
 - ① 連絡通路について、RC部分の目地デザインを工夫することや、道路上空の鉄骨部分の仕上に1号棟外壁と同じアルミスパンドレルを張るなど、ジョイン

ト部分も含めてデザインについて丁寧に検討を行う。

(3) 建築計画について

- ① 一般開放ゾーンがくつろぎの場となるよう、植栽配置をラフにする等検討を行う。
- ② 女子トイレのブース配置計画について検討を行う。
- ③ 喫茶実習室及び接客実習室の作品展示スペースの大壁面について、巾木などが展示の妨げとならないようデザインの検討を行う。

(4) 環境への配慮について

- ① ヒートアイランド対策として緑を増やすなどの配慮を行う。全体的に難しければ一般開放ゾーンの周りに重点的に増やすのもよい。
- ② 緑化については緑被率だけではなく緑視率でも検討し、次回会議時に植栽計画を示す。

(5) 石垣について

- ① 石垣については安全を第一に考えて残置や再利用については行わない。
- ② 新設する擁壁について、ただの無機的なコンクリートが並ぶだけにならないよう、綺麗な目地とするなどのデザインを検討する。

(6) その他

- ① 一般開放ゾーンの間隔の上などに店舗名（愛称）の看板を設け、親しみやすく、街並みが形成されるよう検討する。

【会議概要】

○金澤都市デザイン担当課長

(開会挨拶、出席者紹介、配布資料確認及び議事説明)

○岡河座長

本日の議事について説明をお願いします。

○城戸宮繕部長、設計業務受託者

(議事「広島特別支援学校 2号棟(仮称)増築工事について」の説明)

○岡河座長

ただいまの説明に対して、設計方針、デザイン上の配慮事項に関して、提案または質問、意見があるか。

○鰐澤委員

2号棟側が後から付け足されたというようなイメージではなく、同時にできているような印象を受けた。また、ミニマムですっきりしていて美しく見えるのではないかなという全体的な印象を受けた。

この外壁のタイルの2種類のサンプルの違いは何か。

○設計業務受託者

地元の土を10%混ぜているものと5%混ぜているものである。色味にあまり違いはないが、試作としては、材料の配合を変えて検討してみるということで、二つ作っている。

○鰐澤委員

このサンプル自体でパーセントを変えているのか。

○設計業務受託者

タイルに入れている広島県産の土を混ぜる配合量を10%と5%で変えている。

前回、既存校舎のタイルが通気口のところで少し汚れが出ているという御指摘もあったので、前回ご提示したサンプルは、凸部の出寸法を10ミリとしていたが、今回は5ミリにして、出の寸法を少し抑えた形でサンプルを作っている。

○鰐澤委員

1号棟のタイルはどちらに近いのか。

○設計業務受託者

1号棟も2号棟も合わせるよう検討しており、5%で進めたいと思っている。

○鰐澤委員

アルミスパンドレルは既存校舎と変わらないものを使っているということでしょうか。

○設計業務受託者

はい。屋内運動場の外壁部分で使用している。

○岡河座長

L型は非常に妥当な配置だと思う。

外の西側のルーバーはどういう材料なのか。ルーバーについて説明していただきたい。

○設計業務受託者

アルミのルーバーでの対応を検討している。

○岡河座長

色はシルバーか。

○設計業務受託者

シルバーで考えている。

○岡河座長

シルバーと、タイルのちょっと明るい土色の対比になるというふうに考えているのか。

○設計業務受託者

はい。

○岡河座長

ルーバーの奥行きはどれぐらいか。

○設計業務受託者

コストにもよるが、西日を切れる角度で奥行き300ミリ程度で検討している。

○岡河座長

見付はどれぐらいか。

○設計業務受託者

見付は50ミリで考えている。

○岡河座長

かなり繊細なルーバーになるということか。

○設計業務受託者

はい。

○岡河座長

コンクリートでつくるようなものではなく、繊細な金属が陰影をつくりながらずっと続

いていくということか。値段や工費にもよるとは思うが、ピッチはどれぐらいか。

○設計業務受託者

今は250ミリぐらいで考えている。

全体を同じピッチでいくのか、ある部分を少し角度を変えながらいくのか、今後グラフィック等でも検討していくが、目的が西日の遮光であることも踏まえて検討していきたい。

○岡河座長

西日の遮光での検討ということは、例えば、少し角度を付けた方がいいとか、そういう検討ということか。

○設計業務受託者

そうである。

○岡河座長

要するに平行にずっといくだけではなくて、ところどころ角度を付けて、遠くから見ると陰影が見えるような可能性もあるということか。

○設計業務受託者

はい。そういう形も検討していきたいと思っている。

○鰐澤委員

かなりボリュームがあるのでリアルには想像できないが、遠くから見た感じではいい感じにできているのではないかと思った。

○岡河座長

学校でこれだけルーバーがあるのはあまりないので、非常にきれいな、上品な外観になりそうな感じがする。

○今川委員

タイルについて、土を5%と10%と比率を変えても、割れやすくなるなどタイルの強さには影響はないのか。

○設計業務受託者

破壊検査までは今は至っていないが、含水の検査の中では特に変化はない。

○今川委員

土の産地によっては割れやすいものもあるという印象があるので少し気になった。

ルーバーの高さはどのぐらいか。

○設計業務受託者

腰壁の部分が、フロアから約90センチ分あるので、そこから上のサッシの高さで2メートル程度がルーバーの高さになる。

○今川委員

バーゼルの専門学校でアルミのルーバーを使っており、それを夏に見たが、非常に暑い日でルーバーが湾曲したように見えた。アルミは熱を帯びたら伸びるという記憶があるが、そういったことは問題ないか。

○設計業務受託者

基本的には裏側からボルトで留め、熱伸びに対しては上下に逃がすことができる形で上下を固定せずに、数ミリ伸びる形で計画している。

○今川委員

一クラス当たりの人数は、どのくらいになるのか。

○山領特別支援教育課長

法定で決まっており、高等部なので一クラス8人である。

○今川委員

その8人は、特別支援学校の小中学部からの進学者が多いというふうに受けとめていいのか。

○山領特別支援教育課長

小中学部から上がってくるお子さんもいるが、地元の中学校の特別支援学級にいたお子さんが、高等学校ではなくて特別支援学校の高等部に入ってくるので、高等部は外部からの人数が結構多い。

○今川委員

1号棟の方は、空気の滞留等を配慮したこともあって、視線の交差も期待できるプランになっていたが、2号棟はそういった部分がない。普通の教室のように向かい合わせの教室が並んでいるという状態だが、2号棟の方が重度の生徒さんがたくさん来られるので、そういった生徒さんは、誰かから見られているような状態よりも、こういった閉鎖的な空間の方が落ち着けるというのはあるのか。

また、トイレが端にあるが、重度の生徒さんを教える学校の事例では、トイレを真ん中に持ってくるような学校が多かったように見受けられる。精神的に行き詰まったときに開放的なスペースでリラックスする生徒さんと、閉鎖的なスペースでリラックスする生徒さんとおられるようだが、トイレが両端にあることで対応が可能なのか、その方がいいの

か、その辺りを教えていただきたい。

○山領特別支援教育課長

お子さん個々によって違う。基本的に、既存校舎の方には重複障害のお子さんがあり、増築校舎には重度の単一障害のお子さんが入るが、十分対応できると思う。

○今川委員

京都、滋賀にある、生活をともにしつつ高等教育を受ける併設の施設を幾つか見学に行ったことがあるが、割とすぐに開放的なところに出られるような配慮がなされていた。

それらの施設では、ぱっと庭に出てわっと走っても安全なような配慮もなされていたが、このプランを見るとちょっとそれは難しいかなと思った。

1号棟の方はバルコニーがあって、行き詰まったときにぱっとバルコニーに出られてよかったなと思っていたところが2号棟の増築で教室に変わったので、心を開放するような代替空間をどうされるのかを教えていただきたい。

○山領特別支援教育課長

確かに外へ出て叫ぶお子さんもいらっしゃるのかもしれないが、既存校舎においても、クールダウンできるようなスペースを、子どもたちが置かれた環境の中で自ら見つけている。あえて外へ出やすいように必ずしなければならないほどでもないと考えている。

今仮設校舎にいるお子さんたちは教室しかない建物の状態だが、外へ出てわっという感じになっているお子さんが多いという実態があるわけではない。

○岡河座長

1号棟は真ん中に吹き抜けのような空間があるが、これは基本的には堅穴区画にしなければならない防火区画の部分だろう。2号棟には吹き抜けのような空間はないという計画か。

○設計業務受託者

2号棟の部分については、真ん中の部分の2スパンにクールダウンスペースを設けており、グラウンド側に縦に吹き抜けがある。ここで風は縦に抜けていく形で考えている。1号棟のような大きな吹き抜け空間というのは、現状の計画では設けていない。

○岡河座長

2号棟のグラウンド側の縦の空間も、防火シャッターで堅穴区画する吹き抜けか。

○設計業務受託者

この部分は、エレベーター、階段を含めて堅穴で区切っていく吹き抜けになっている。

○岡河座長

1号棟と2号棟とで空間の感じが少し違っているのは、重度の生徒が多いということがあるのか。

○設計業務受託者

それも考慮している。

○岡河座長

1号棟には中央に吹き抜けなり風の通る空間があるが、重度の生徒が入る2号棟の方はやや閉鎖的にしてあるというふうに理解してよいのか。

○設計業務受託者

はい。1号棟の方は、どちらかという社会に出てコミュニケーションをとっていくという生徒さんが主に入られるので、活動が見える形で縦の空間をつなげていくという考えで計画している。

2号棟の方は単一の重度の方が入られるので、縦のつながりというよりも平面的にクールダウンのスペース等を設けて活動していくという計画である。

○岡河座長

少しの違いに非常によく適応した配慮だというふうに理解できる。

○柏尾委員

グラウンドの素材については、今回どうなっているのか。

○設計業務受託者

客土で計画しており、地下部分については土木との取り合いがあるが、既存校舎と同じような形で暗渠の配管を入れて水たまりができないような形での排水計画とし、表面についてはグラウンド用の排水性能の良い土で計画している。

○柏尾委員

中央部分も全部土か。

○設計業務受託者

はい。

○柏尾委員

外壁のタイルだが、既存校舎は地元の土の配合が5%ということか。

○設計業務受託者

正確な数字は覚えていないが、既存校舎の方がもう少し量は多かったかと思う。

全体的な色目を既存校舎に合わせるという配慮と、製作上の問題もあって、今回5%程度にしたいと考えている。

○柏尾委員

今後の補修のときに安定した供給ができる必要があると思うので、既存校舎のものと合わせて統一していくのかどうかも検討しておく必要があると思った。

連絡通路の部分の素材について教えていただきたい。

○設計業務受託者

道路上が5.5メートルなので、基本的には、腰壁状に見えている900ミリのところを、鉄骨で梁を逆梁として、その上にガラスを設け、さらにその上部の50センチ部分が開口となっている計画で、通路の中に外気が通ってくるという考えである。

この外装部分の仕上げについては、コスト的な問題もあるので、鉄面の部分を逆梁で利用して腰壁にすることになる。

両端部の階段及びエレベーターについては、現状はRCで計画をしたいと考えている。

○柏尾委員

できるだけ圧迫感の少ないような処理が望まれる。

腰壁の上の部分はガラス張りか。

○設計業務受託者

はい。

○高田委員

1号棟の玄関を入ったところが前回と変わっていて、門を入ったところからの見渡し感がすごく出て、すごく気持ちが悪くなっていいふうに変ったなと思った。

エレベーターの位置が変わり、スロープはなくなったのか。土間ひろばから入って来られた人でスロープが必要な方は、まず2号棟に入ってスロープを利用して1号棟に入るようになるのか。

○設計業務受託者

1号棟については、土間ひろばからエレベーターに乗っていただき、GL+2メートルの下足スペースにも出られる貫通型のエレベーターで考えているので、GL±0とGL+2メートルの両方をエレベーターで行ける考えである。

○高田委員

2号棟に入る生徒さんは、門から入ってきて、ピロティの下の駐車場の車が停まってい

る後ろを歩いて2号棟に入るのか。車の後ろを通るのはどうなのか。

○設計業務受託者

生徒さんは8時半から授業に入り、カフェの運用が9時半ごろからのため、車が停まるのは週に一回から二回の9時半以降となり、登校の時間帯とは重ならない。駐車場の裏には舗装の仕上げを変えて幅1.5メートルの歩くスペースをとっているのだから、そこを歩いてスロープで入っていただくか、階段で上がっていただくという形を考えている。

○高田委員

危なくないようになっているということか。

○設計業務受託者

はい。

○高田委員

ショップと喫茶部のところが間口が広くなり、すごい感じがよくなったなというふうにした。

○設計業務受託者

来校者の方は一般開放ゾーンの中央あたりに風除室があり、そこから直接入っていただき、喫茶実習側や接客実習のショップ側に分かれて入っていただく動線計画としている。2号棟1階に車を停めた来校者の方が、内部のエントランスホールから喫茶実習に入っていただくこともできるように、2通りのアプローチを考えている。

○高田委員

傘を差さずに行けるのか。

○設計業務受託者

来校者の駐車スペースからは傘を差さずに行ける計画を考えている。

○高田委員

全体的にすごく整然としたきちんとした建築と植栽の感じだが、北西面の喫茶実習側や接客実習のショップの外部空間について、木をランダムに植えてラフな感じにするとくつろげる空間になると思う。

○岡河座長

私も、この喫茶実習室のデザインは、庇がちょうど出ていてよい方向になったなと感じた。もし可能なら、ここのお店に名前をつけて、庇の上におしゃれな看板があると、学校というよりも街の感じがつくれるのではないかと思うので、そういうところのデザインで

親しみやすいものになればよいなと思う。

○田中委員

環境に関する事で四点ほどあるが、まず一点目、熱交換塗料とはどういうものなのか。

○設計業務受託者

塗膜の中に微細な気泡が入っており、その気泡等が振動して、熱くなっているものの上に塗ったときに消熱をする塗料ということで販売されている。

既存校舎にも東側に駐車スペースのアスファルトの舗装の部分に熱交換塗料を塗っており、かなり温度差があるなというのは実感した。

○田中委員

白いと日射の反射率が上がるように思うが、人が使うところに白い塗料を使用するのは反射率の影響は大丈夫なのか。

○設計業務受託者

白い熱交換塗料も着色をして使用ができるので、人が使う部分についての反射率は、指定色で着色すればまぶしさは低減できる。

屋内運動場の屋根や1号棟中央部分の吹き抜けの上のハイサイドライト部分の屋根など、直接人が上に乗らないところについては高反射塗料というグレーで艶がある塗料で計画している。赤外線熱線を跳ね返して、熱を伝えない塗装であるとヒアリングをしている。

○田中委員

熱交換塗料は色を塗ってもパフォーマンスは出るということなのか。

○設計業務受託者

そのようにヒアリングしている。

○田中委員

エネルギーなのでなくなることはなく、何かの形で出ていくはずなので、その辺りが大丈夫なのか。

○設計業務受託者

大丈夫だと聞いている。

○岡河座長

どこへ使うのか。

○設計業務受託者

1号棟の陸屋根の屋上部分を開放して、生徒さんが来校者に周辺地域について案内されるというふうに向っているのですが、屋上の押さえコンクリート部分について熱交換塗料の使用を考えている。

○田中委員

二点目は、ヒートアイランド対策のところ、透水性舗装ということが書かれているが、透水性舗装は基本的に水が下にいってしまうので、水を下に持っていくということでは意味があると思うが、ヒートアイランド対策の効果としてはあまりないので、ヒートアイランド対策のところには書かない方がいいと思う。

三点目は、この辺りは海から近いのでかなり風が吹く場所だと思うが、自然の風の流れをどう使うかというところが環境的には一つのポイントになると思う。

そう考えると、重力換気も大事だと思うが、自然の風の利用は何か考えているのか。

○設計業務受託者

風についてはシミュレーションしている。基本的には海風なので、南側から北に向かう風に対して、その反対側の陰圧になる側で風が抜けるようにすると、通る風が引っ張って中の風をどんどん吸い出してくれる状況になるので、その方法で換気を図るよう考えている。この場所の特徴は海風なので、うまく風の流れをシミュレーションして建物に活かしていきたい。

○田中委員

風の通り道も設計段階で考えていくということか。

○設計業務受託者

そうである。

○田中委員

最後に、敷地内緑化の緑化率や緑被率はどのくらいなるのか。

○設計業務受託者

条例に従って敷地面積からグラウンドの面積を除いた面積に対して10%の緑地を確保する。敷地の周辺の道路に面した部分を緑化し、効率よく緑を配置しようと考えている。

○田中委員

ヒートアイランド対策と言うには全体的に緑がもう少しあるといいと思ったので、考えていただきたい。

一般開放の実習室周りにももう少し緑とかあると、安らぎの空間になると思った。限界も

あろうかと思うので、配慮できる範囲でお願いしたい。

○今川委員

耐震や災害への配慮と、避難経路の計画等について御説明いただきたい。

○設計業務受託者

1号棟については、図面の上側と2号棟への接続部分に二方向避難階段がある。2号棟についても、図面での右側と中央部に避難階段があり、全体で四か所に避難階段がある。

あと、日常的に使用される吹き抜け部分の直通階段もあるので、大きく言うと五か所の階段がある。

○岡河座長

基本的には、全体で四か所避難階段を計画しているということである。

○今川委員

上階の方に実習室や陶芸、染色の教室を設けているので、お子さんが集中して作業に入ると、上階の方からどうやって避難させるのかなど、その辺りの計画についてお伺いしたい。

L型のジョイント部の地震に弱い場所を避けての非常時の避難というのは何か考えているのか。

○設計業務受託者

内部の通路についても、基本的にはクリアランス寸法を設けてエキスパンションで切るので、ここで建物が分断されるという危険性は少ない。

○岡河座長

仮に分断されてもそれぞれ独立に避難できるのではないか。

○設計業務受託者

それぞれでも適切に避難できる。

○岡河座長

L型のときの避難で問題が生じるのは、L型の建物で一体の避難経路となっているときの話である。

基本的には、棟ごとに二方向で逃げ道がつくってあるというふうに理解をしているが、そういうことでよいか。

○設計業務受託者

そのとおりである。

○岡河座長

避難訓練はされるのか。

○山領特別支援教育課長

現状もそうだが、避難訓練は必ず行う。

○岡河座長

こういう建物では、基本的にはジョイント部分は通らずに、棟ごとで避難するよう訓練するのが大事なことはないかと思う。

ジョイント部分で壊れないように設計はするが、建物それぞれで下まで降りるという訓練ということになるのではないかと思う。

○山領特別支援教育課長

いただいた御意見は学校側にも伝えていく。

○岡河座長

二方向避難できる計画がきちんとできているということを確認できてよかった。

連絡通路やジョイントの部分について、デザインがおろそかで情けない感じに見えることが多いため、鉄骨の仕上げの素材や外装の素材について、例えば、スパンドレルが使えるのならその辺りで考えていただくなど、もう一工夫していただきたい。

また、連絡通路のエレベーター部分はかなり大きなコンクリートの壁面になるので印象としては大きいと思う。細かいところだが、そのデザインが丁寧だと校舎全体の印象が非常によくなるので、引き続き、少しその辺りを検討していただきたい。

前回の議事での委員の意見への検討状況について報告をお願いします。

○城戸都市整備局営繕部長

(前回の議事「広島特別支援学校増築工事について」の委員の意見への検討状況について報告)

○岡河座長

ただいまの説明に対して、設計方針、デザイン上の配慮事項に関して、提案または質問、意見があるか。

○今川委員

喫茶スペース、エントランス部分の1階部分が5.5メートルから6メートルぐらいあると思うが、広島の平和記念資料館ではヒューマンスケールという言い方をしており、ヒュー

マンスケールからアーバンスケールに変えられて広く公的な利用と街に開放するつくりというふうな形になっている。

そのため、今回もヒューマンスケールという言い方ではなく、アーバンスケールとした方が、印象がよいのではないかなと思った。

○岡河座長

中間庇を設けることでヒューマンスケールになったという理解をされていいと思う。

○今川委員

そこで広島を誇る、街と人のつながりというのを再現してるということか。

○岡河座長

再現できると思う。

○今川委員

広島市の緑の基本計画では緑被率ではなく緑視率という言い方に変えての計画をなさっているのだから、緑視率で数値を出し、緑も豊かで環境にも配慮してるということを表現した方がよいのではないか。

女子トイレが向かい合わせにドアがあるのは、女性として非常に変えていただきたい点であるので、配置について検討していただきたい。

○岡河座長

石垣については、私も最初はテクスチャーとして残せばよいと思ったが、ハンデのある子どもたちが通う学校で安全性が担保できないものを残すというのは悔いが残るということで、まずは安全を確保していただくということで進めていただきたい。

ただ、擁壁のコンクリートの面については、やはり学校であるため安全性を担保するのが第一だが、無機質なコンクリートが並んでいるよりは、きれいな目地とするなど、何らかの配慮についてデザインのレベルで検討していただきたい。

今回は、建物が相当上品なものになるので、地域全体としてはかなりよい状況になると思う。特に、お店のトレーニングをするところが、緑と一緒にいいスペースになれば、教育施設としての環境だけでなく都市環境として周りにとっても非常によいものになると思うので、引き続き全体を向上するという意味で、細かいところも検討をしていただきたい。

○柏尾委員

外壁タイルについて、目地色でも全体の印象は大きく変わってしまうので、目地色につ

いては既存校舎のものとの対比はどうか。

○設計業務受託者

既存校舎では、かなり白目の目地を入れており、今回もタイル色も目地色も既存校舎に合わせた色目で検討している。

○柏尾委員

既存校舎に合わせるような形ということか。

○設計業務受託者

そうである。

○柏尾委員

今回の会議のときに、若干明度の低い目地色があるなら、汚れを目立たなくさせていくという意図で、サンプルを見せていただきたい。

○設計業務受託者

濃い目の目地を、検討案で別に作るということか。

○柏尾委員

そうである。

○設計業務受託者

わかった。

○今川委員

もし検討案を作られるのであれば、これまでいろいろと設計されている事例で、こういったタイルを使ってその目地色が濃かった場合に、何年か経ったらこういうふうに汚れてくるとか、白くなるとかいう資料等をお持ちであれば、それも合わせて見せていただきたい。

○岡河座長

これからの公共的な建物の持続性から、汚れも含めて将来計画をとというのは大変よいことだと思う。いつまでも新品のように見えるのとは違うタイプの美しさもあり得る。経年のデザインというのをぜひ考えられるとよいと思う。

それでは、本日予定していた議事については以上である。議事進行を事務局に返す。

○金澤都市デザイン担当課長

二回目会議に向けて、対応、宿題としてお預かりする御意見を申し上げるので、追加があれば御指摘をいただきたい。

柏尾委員より、タイル制作に当たって、今後の補修への対応ができるような形、材料を決めていてもらいたいということ。それから、連絡通路の材料、仕上げについては、圧迫感が少なくなるような形にしてもらいたいという御意見があった。

高田委員より、1号棟の開放部の入り口部分がかかなりよくなっていて、引き続いて植栽計画も含めてくつろげるラフな感じのデザインができれば、なおよいのではないかという御意見があった。

座長より、エントランスのところについて、開放部に名前をつけて親しみやすいような雰囲気を出し、可能であれば、小庇の上などにおしゃれな看板などがつくると、学校というより街の施設というような感じが出るのではないかというような御意見があった。

また、連絡通路のエレベーター棟のRC造の部分と、それらをつなぐ鉄骨造のブリッジの部分のデザインをおろそかにせず、丁寧にすることで全体としてのデザインの質を上げることができるという御意見があった。

田中委員より、コストとの兼ね合いもあると思うが、例えば、一般開放する実習室の周りなどに対して、ヒートアイランド対策としてももう少し緑化をしてはどうかという御意見があった。

今川委員より、緑化については緑視率としての検討をして、そうした観点の計画も示してもらいたいという御意見があった。

また、女子トイレのブースの配置については、もう少し工夫があった方がよいのではないかという御意見があった。

最後に、次回の二回目会議において、タイル見本を準備するのであれば、目地色の少し違うものも作ってはどうかという御意見と、汚れ対策の一方で、今川委員からは少し濃い目の目地色を置いた場合の課題についての資料がもしあれば準備をしてもらいたいという御意見があった。

以上の内容、項目と思うがいかがか。

○鰐澤委員

インスタレーションしたり、作品を展示したりできる大きな壁面について、できれば幅木はない方がいい。全部の壁面でなくても、せめて展示の壁ぐらいは幅木をとってもらえればよいと思う。

○岡河座長

幅木がないと汚れた時どうするかとかあるので、同じような色に見える白い幅木にして、

壁面が面としてできるだけ自立するようなものとするなど、テクニックを駆使して検討していただきたい。

○鰐澤委員

できれば、ドリルが使えたり、釘が打てたりでき、ベージュの壁ではなくてホワイトキューブのように真っ白な壁とし、汚れたらローラーで塗り替えられるようなものにしてほしい。

○柏尾委員

先ほどの目地色の件だが、全体の印象は保ちながら若干明度を落としたものというレベルなので、大きくダークにするということではない。

○高田委員

ラフな感じというのは外構の植栽の配置のことである。整然と植栽されているので、あそこが少しランダムな感じになるといいかなと思う。

○金澤都市デザイン担当課長

では、先ほど申し上げたものに加えて、鰐澤委員から、展示壁面のディテールや色彩については十分に検討し、幅木が目立たないような形ができれば非常によろしいのではないかというような御意見でよろしいか。

○今川委員

今回は、植栽計画を見せていただきたい。

○金澤都市デザイン担当課長

準備する。

それでは、本日予定していた議事については以上である。